

212

七

是平泉村

卷之所開

平泉關中山尊寺名所舊跡之圖





天保四年己酉八月十三日 記中之地村



最明寺時頼  
 川のたより河州境  
 大田村の内  
 鬼首村の内  
 山崎の町

のきとさう昔園の歌たの老跡  
こゝろ

百後海乃より運ぬまふ中  
もろ

石浦老をまき河ま集の小湾  
こま

古市不飲かまま集の松友  
こま

秋名をまき河の瀬を系  
あき

の流り老をまき河の瀬を系  
おん

の橋共田村の歌とまき河の  
おん

黒松をまき河の瀬を系  
おん

風をたよりまき河の瀬を系  
おん

山崎所本枕塗の存物か  
おん

七木鐘掛橋の死の存物か  
おん

山崎所本枕塗の存物か  
おん



王...  
 小...  
 降...  
 大...  
 記...  
 小...



王...  
 中...  
 業...  
 志...  
 志...  
 志...

二月九日  
 九月九日  
 德...  
 の...  
 志...  
 志...  
 志...  
 志...  
 志...  
 志...  
 志...  
 志...  
 志...  
 志...

時任 義遠 村中







公帳換の池九条の親の苗上  
 淡菊孝吉を以て其跡を以て  
 折平泉の奥の國の太守前  
 法守府將軍者原其備居  
 版の心は維御所信小治の郭石  
 有る本居の版の國備將軍者備

日礼物

梅森社 芳野の  
内と名

日光院

日友お梅 大木林

神のまゝ 天をそ

の境板 号をたか

名を大木(一)の

杖林のまゝをたより

刀を元流泉水の

姉の女のまゝき頃小

あつたつてごさ

と山の日の人を

の杖のあてまゝ

ひは杖のまゝ

○達谷の巻以古此

河上織冠の丸

裏をまもりまゝに  
 跡をまもりまゝに  
 道と公の跡のまゝに  
 春のまゝに  
 十一年のまゝに  
 實為のまゝに



加藤もあまの...  
 海乃の...  
 結言...  
 女...  
 乃西...  
 後...

とも者...  
 外...  
 岩...  
 見...  
 本...  
 月...  
 今...  
 南...  
 大...  
 鬼...  
 産...

門...  
 主...  
 紫...  
 阿...  
 張...



衣川

拾遺 山名也  
終より南

みらの丸  
衣川

かひる



香取の松は遠く海に雲を映

美を曇る昔は松の影も

寺の跡松の影は月影に

照る松の影松の影は水

星洞の松は松の影は

の松は松の影は松の影

詞元

中之

ゆきん 雲の

とんをわいしをぬ

白木

南門内

ちりか

まじり

橋

中洲

さか

を

さ

の

寺の松は松の影は

松の影は松の影は

松の影は松の影は

松の影は松の影は

松の影は松の影は

松の影は松の影は



みら  
のけ  
西の山  
の木の  
林  
君  
ま  
人

仁明帝の御宇  
天保二年  
年意

美作の羅素王  
延和二年  
年意

茂原清浄寺  
天保二年  
年意

東の寺  
天保二年  
年意

西の寺  
天保二年  
年意

南の河  
天保二年  
年意

北の山  
天保二年  
年意

東の山  
天保二年  
年意

西の山  
天保二年  
年意

南の山  
天保二年  
年意

北の山  
天保二年  
年意

東の山  
天保二年  
年意

中  
東  
山  
林  
二  
三

古  
古  
古  
古

高  
高  
高  
高

古  
古  
古  
古

古  
古  
古  
古









四祿のたつ庚辰とて今儀まの  
 僧院十雨合運の事と書し  
 のまほさる者と言余寺と  
 其のたつきうやまのこま  
 たり其のまのたつまの  
 俗神約獄と事福と長と  
 是若安倍村の福と樹と  
 樹と

○國乃山記名  
 仁明寺 嘉祥三年  
 嘉祥三年 再奉之  
 同作十一面の像あり  
 住持の金輪の頃岳  
 寺々々々々々々々々  
 極楽寺と号す  
 ○後心 後心なり  
 ○社名 〇八〇の内  
 ○向ま男岡山。女也  
 〇のあり  
 〇序記昆沙  
 〇正法寺 付大い泉  
 〇正法寺 〇正法寺

〇淡々空羅漢大福と事  
 枯根上の事と事  
 〇電社に記今と事  
 〇上の流と事  
 〇行是昆沙大系と事  
 〇伊勢平神の社と事



星

星

健

三

郎

漢  
嘉  
茂  
院